

関西遠征雑感②

宿泊合宿をする際、気をつけていることがあります。それは、ちょっと変な言い方になりますが、その合宿が野球だけにならないようにすることです。今回の関西遠征も甲子園大会の見学をする日を設けましたが、マネージャー5名をそれぞれ班長とする5つの班で行動、観戦時間は1試合以内、その日は丸1日自由行動なので、それ以外の時間については自分達で考えて決めるという形にしました。

自分で考える、判断し、行動する・・・

とても大切なことだと思います。

そういう視点から考えると、同じような1日を設定しても、バス等で部員皆でどこかの観光地を回るというようなやり方は全く無意味だというのが私の考えです（基本部員は何も考えない1日になるからです）。

これまでの経験で、野球を「する」ことだけが自チームの戦力を上げる訳ではないことが分かっています。今回の私達のように、公共機関での移動、少人数（班ごと）での行動となると、どこに行くか、移動手段や時間、食事をどうするか・・・すべて自分達の考えや判断で行動しなければなりません。考えて行動することをあえて合宿の中に取り入れるようにしていることを理解していただければと思います。

この夏、市高は9回1死までリードを許す試合（その後、逆転勝利）を経験しましたが、その場面での2盗成功は1塁ランナーが自分の考え・判断で決行したものでした。そういう力を身につけて欲しいのです。

今回、この1日を利用して大阪万博に言った班があったと聞きました。素晴らしいです。

私達は進学校野球部、頭を使って勝利に近づくのです。忘れないように・・・

関西遠征、お疲れ様でした。

関西遠征雑感③

毎年、県外への宿泊遠征を経て、市高での活動が再開すると、選手達が少しだけ遅くなっていることに気付かされます。

変な比較になりますが、野球選手、上手な子がオドオドプレーしているのと、下手な子が（ハッターでも）堂々とプレーしている、どちらが結果を出すか・・・それは間違いなく下手でも堂々とプレーしている子です。

試合で勝つ喜びを味わいたかったら、勝ちに辿り着くまでのプレッシャーを克服しなければなりません。よく野球を楽しみたいと言いますが、その楽しみはプレッシャーを克服した先にあります。ですから練習や練習試合時は指導者である立場の私からプレッシャーをかけることも当然あります（私も公式戦で勝ちたいので）。逆に勝つことを目指していないのであれば、指導者なんて誰でもよいのではないのでしょうか？また、指導者がかけるプレッシャーなど、公式戦でかかるプレッシャーに比べれば軽いものです（試合時は、自分がここで打てば勝てる、抑えれば勝てる、アウトにすれば勝てる、そういうプレッシャーです。比較になりません）。

楽しい思いだけしたいのなら、そのような学校でプレーすればいいと思います。ただ、そのような学校は勝つプレッシャーを克服できず負けてばかりだと思いますが・・・（実際にそう）。

私は（公立高校でも）勝てることを示したいです。そのために必要なプレッシャー、そのあたりを理解していただける新入生をお待ちしています（あれ、新入部員の勧誘になっている・笑）

少し遅くなった現役部員も見てやってください。よろしくお願い致します。